

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272501073		
法人名	社会福祉法人貴望会		
事業所名	グループホームみほの		
所在地 (電話番号)	〒039-4141 青森県上北郡横浜町三保野54番地 (電話) 0175-78-6640		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年2月18日	評価確定日	平成20年4月2日

【情報提供票より】(平成20年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 ~ 冬期9,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ちびき病院、横浜診療所、橋本歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>周囲には住宅、幼稚園、ふれあいセンターなどがあり、地域の中のホームということを感じさせる。ホームは暖かい光が十分差し込み、ふんだんに使われた木のぬくもりが家庭らしさを増大させる。地元の言葉を使いながらも、利用者を尊重した声掛けをしている。利用者のADLが低下しても、できる限り慣れ親しんだこのホームでの生活を継続できるよう理念のもとケアに取り組んでいる。地域ならではの市に出掛けたり、幼稚園や学校の生徒とのふれあいがあり、地域交流を図っている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の共有については、出勤時に個々で確認している。また日々のケアの場面で態度、言葉遣い、表情など確認し合うようにしている。介護計画に反映できる記録については、記録方法を改善し取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的を職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>地域に開かれたサービスとして地域との交流促進のため、質の確保を図るために、運営推進会議の早期開催の必要がある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>併設施設に苦情ポストを設置している。電話や面会時に、意見・不満・苦情等を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。出されたことについては、すぐに対応することを心掛けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>幼稚園や小学校の行事、ふれあいセンターでの催し物、地域の祭り等に参加し、交流をもつ機会を大切にしている。介護教室の認知症の講師として地域へ認知症ケアの啓発を行なっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念を職員全員で見直し、わかりやすい表現で作り上げている。		理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を、盛り込めることが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者がその人らしく生活できるように理念を共有し、日々のケアの場面で態度、言葉遣い、表情など確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣住民や近くの幼稚園の子供たちなど、声をかけたり挨拶をしている。地域のボランティアの訪問が定期的であり、会話を楽しんでいる。幼稚園や小学校の行事、ふれあいセンターでの催し物、地域の祭り等に参加し、交流をもつ機会を大切にしている。介護教室の認知症の講師として地域へ認知症ケアの啓発を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義や目的を職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組んでいる。評価後はユニット毎に話し合い、改善策を検討し、取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議開催の準備はしているが、開催に至っていない。</p>		<p>地域に開かれたサービスとして地域との交流促進のため、質の確保を図るために、運営推進会議の早期開催の必要がある。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者と顔を合わせる機会はあるが、情報交換等に至っていない。</p>		<p>運営推進会議開催を機に情報交換し、ホームの現状や考え方等を共有し、今後、連携を図ることが望まれる。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居時、成年後見制度等について、利用者、家族に説明し利用している方もいる。勉強会や研修の機会はなく、制度に対する理解が薄い現状である。</p>		<p>勉強する機会を設け、職員全体で権利擁護に関する制度について、理解を深めることが望まれる。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待はしないことを職員全員で徹底し、ケアが虐待にあたらないか確認し合っている。</p>		<p>勉強する機会を設け、職員全体で高齢者虐待や制度について、理解を深めることが望まれる。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>書面を用い、わかりやすい言葉で説明している。特に質問に出る料金、重度化への対応、入院時の対応等、詳しく説明し同意を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>心身の状況や暮らしぶりについては、家族面会時や電話にて定期的に報告している。金銭管理は金銭出納帳をつけ、3ヵ月毎に領収書と共に家族に確認している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>併設施設に苦情ポストを設置している。電話や面会時に、意見・不満・苦情等を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。出されたことについては、すぐに対応することを心掛けている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を最小限にするために、運営者と話し合いを重ねている。やむを得ず職員交代する場合は、引き継ぎ期間を十分にとるようにしているが、利用者に影響を及ぼすことがある。</p>		<p>利用者と職員との馴染みの関係を重視し、職員の交代が最小限になることが好ましい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヵ月に1回ホーム内で勉強会を開催し、ケアについて理解を深めている。認知症の研修会に参加後、ホーム内で報告会を行なっている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しているが、同業者や他法人の事業者と交流をもつ機会はない。		他グループホームの見学や情報交換、勉強会等を通じて交流を深め、気づきや悩みを共有し、相互の質の向上につなげていくことが望ましい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は認知症対応型通所介護の利用や見学等を通じて、徐々にホームに慣れ、スムーズにホームでの生活ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の習慣、経験を大切に、畑作業や生活の知恵や文化等を教えてもらう場面がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりが希望通りの生活が送れるように言葉・表情等から、思いを引き出すように努めている。思いを引き出すことが困難な場合は、家族と相談しながら利用者本位の視点を大切にしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>独自の様式を用いて本人、家族、職員からの情報を得て介護計画を作成しているが、課題やケア方法が職員の視点から見た介護計画の内容となっている。</p>		<p>日々の生活の中での気づきを取り入れ、アセスメントをすることが好ましい。それをもとに利用者の視点にたった介護計画の作成が望まれる。</p>
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回カンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。状態変化時は、その都度変更している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者・家族の状況に応じて、外泊や外出、通院等の必要な送迎は対応している。医療連携体制をとり、体調管理や医療面との連携が図られている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望により、かかりつけ医の受診を継続している。通院の支援を行っているが、町外へは家族に依頼し、協力を得ている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度になった場合でも、ホームで生活が可能などまで支援することを伝え、同意を得ている。状態に変化がある都度、利用者・家族の意向を確認しながら、今後の方針について話し合い情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時にプライバシーについて説明し、同意書をとっている。態度や言葉遣いなど、日々確認し合い、プライバシーの確保に努めている。ケースや記録物は鍵付きキャビネットにて管理している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に確認しながら、できる限り本人のペースに合わせて支援するように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>併設施設で調理された食事を、利用者と職員と一緒に食卓を囲み、旬の話題を話しながら食べている。準備・後片づけは利用者個々の力が発揮できるように、役割分担をして行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>1日おきに入浴日を設けているが、利用者の意向を確認している。声掛けや対応の工夫をしても入浴を拒否する方に対しては、足浴などを行って対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>日々の暮らしの中からできることを見つけ、家事やレクリエーション等を通じて、楽しみを引き出すように努めている。</p>		<p>生活歴だけでなく、日々の生活の中から利用者個々の新しい気づきや情報を得て、ケアにつなげることが望ましい。</p>
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>5のつく日には『五の市』に出掛け、地域住民との交流を図り、楽しみ、気分転換の良い機会となっている。希望時には職員と一緒に、近所に散歩に出掛けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員全員が身体拘束はしないことを徹底し、ケアを行っている。</p>		<p>身体拘束について勉強する機会を設け、日々のケアが身体拘束にあたらないか等振り返りを行い、より理解を深め質の向上につなげていただきたい。</p>
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員間で連携し鍵をかけない対応に努めているが、通院等で人員不足の時に安全上やむなく、時間を決めて鍵をかけることがある。</p>		<p>利用者の安全を確保しながらも、日中鍵をかけなくても良いケアに全職員で取り組んでいただきたい。近隣住民や近くのセンター等の協力も得て、地域の連携を深めていくことが望ましい。</p>
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回法人において避難訓練を実施し、利用者と共に参加し、避難経路の確認を行っている。災害時の物資も準備している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有できるようにしている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対策マニュアルを作成し、汚物処理の方法の仕方などを職員間で周知している。インフルエンザ予防接種は利用者・職員共に行い、手洗い・うがいの徹底をして予防している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内の装飾は季節を感じさせる工夫をしている。空調、加湿器等を設置し、快適に暮らせるよう配慮している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具、座椅子等が持ち込まれ、利用者の好みの物や写真が飾られ、自分の部屋となっている。利用者の希望するものは家族に相談し、購入している。</p>		

 は、重点項目。